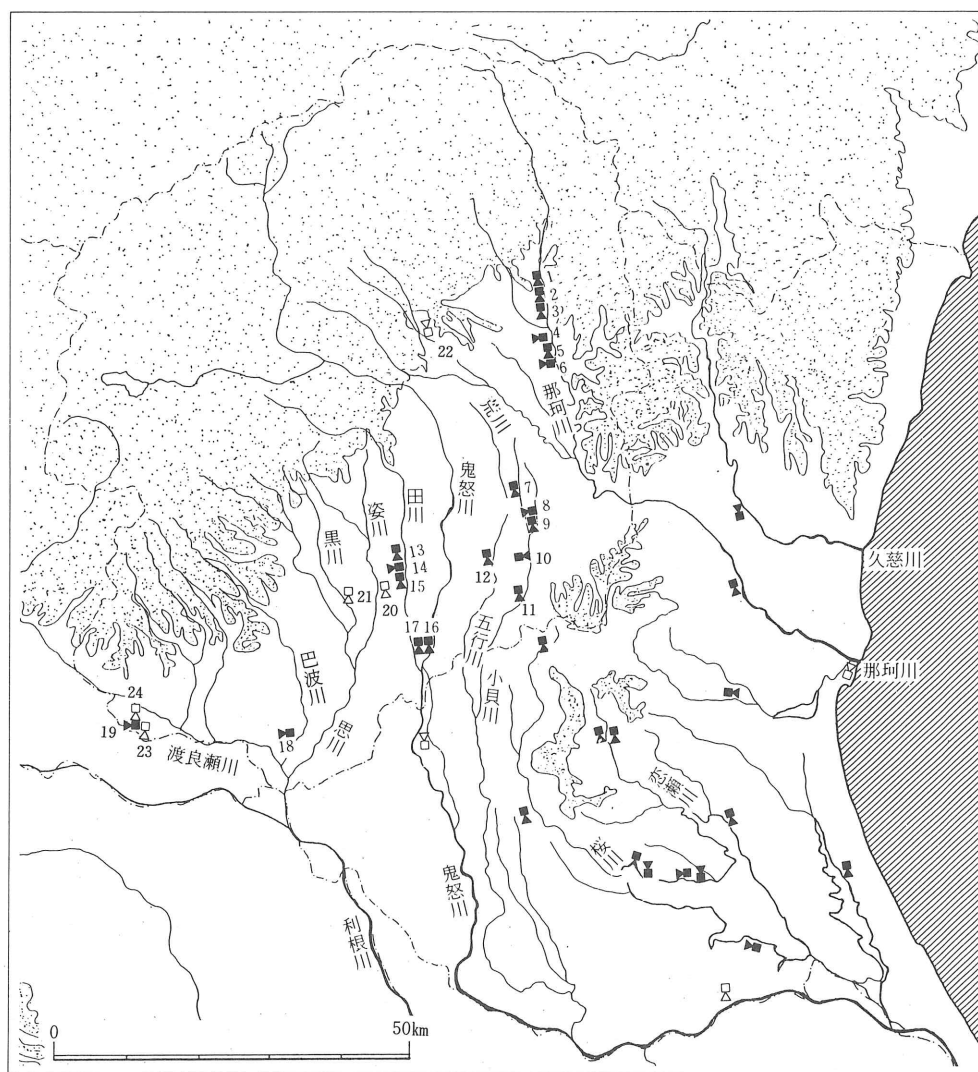


第3章 下野における古墳出現期の様相

古墳は、一定の領域を支配する首長の墳墓であるが、その領域は河川の領域を単位とする。下(毛)野において出現期の古墳が分布する地域は、①県北東部の那珂川上流域、②県南東部の小貝川・五行川流域、③県中央部の田川流域、④県南部の思川・巴波川流域、⑤県南西部の渡良瀬川流域などである。その状況は上(毛)野と同様で、複数の勢力圏が分立していたものと考えられる。しかしながら、下(毛)野においては出現期古墳のすべてが前方後方墳である。また渡良瀬川流域のものを除けば、小形古墳であることが特徴であり、その支配領域はかなり狭いものであったと思



第134図 下野および常陸における前方後方墳の分布

結 茂原古墳群をめぐる諸問題

No	古 墳 名	所 在 地	墳 長 (m)	埋 葬 施 設	副 葬 品	土 師 器	葺石	文献
1	下侍塚古墳	那須郡湯津上村湯津上	84	粘土塚?	鏡・甲冑片・刀片・矛片	底部穿孔壺	○	1・2
2	上侍塚北古墳	那須郡湯津上村湯津上	48.5	—	—			1・3
3	上侍塚古墳	那須郡湯津上村湯津上	114	粘土塚?	鏡・甲冑片・刀片・矛片		○	1・2
4	駒形大塚古墳	那須郡小川町三輪	64	木炭塚	鏡・剣・刀・斧・鉈・刀子・銅鏃・ガラス小玉	壺・高坏・器台・鉢		4
5	吉田温泉神社古墳	那須郡小川町吉田	50	粘土塚	剣・短冊形鉄斧	壺・甕・器台		5・6
6	那須八幡塚古墳	那須郡小川町吉田	68	両小口粘土塊	鏡・剣・鉈・鉈・間透・けずり小刀・鉄斧・鎌	小形埴・甕	○	3
7	ハツ木浅間山古墳	芳賀郡芳賀町ハツ木	57	—	—			7
8	上根二子塚1号墳	芳賀郡市貝町上根	29	—	—			8
9	上根二子塚3号墳	芳賀郡市貝町上根	42.7	—	—	甕		8
10	星の宮浅間塚古墳	芳賀郡益子町塙	52	—	—			10
11	山崎1号墳	真岡市根本・山崎	33.4	鹿沼土塚	剣・鉈・管玉	小形丸底埴・高坏・壺・甕		11
12	西高橋亀の子塚古墳	芳賀郡芳賀町西高橋	56.3	—	—			9
13	茂原権現山古墳	宇都宮市茂原町	63	—	—			本書
14	茂原大日塚古墳	宇都宮市茂原町	35.8	木棺直葬	鏡	壺・甕・埴・埴器台・高坏		本書
15	茂原愛宕塚古墳	宇都宮市茂原町	50	両小口粘土塊	鏡・刀子・櫛・管玉・刀子・管玉・ガラス小玉	壺・甕・埴・埴器台・高坏		本書
16	三王山南塚1号墳	河内郡南河内町磯部	46.5	—	—			12
17	三王山南塚2号墳	河内郡南河内町磯部	50	—	—	壺・高坏		12
18	山王寺大樹塚古墳	下都賀郡藤岡町蛭沼	96	鹿沼土塚	鏡・刀・剣・銅鏃・鉄鏃・斧・鎌・鉈・刀子・管玉・ガラス小玉	底部穿孔壺 台付甕		13
19	藤本観音山古墳	足利市藤本町	116.5	—	—	壺・台付甕	○	14

(前方後方墳の可能性のある古墳)

20	文殊山古墳	下都賀郡石橋町下古山	?	—	鏡・剣・銅鏃・管玉			16
21	北原2号墳	下都賀郡壬生町羽生田	23.2	—	—			17
22	木幡神社古墳	矢板市木幡	52.6	—	—			15
23	根本神社古墳	足利市朝倉町	?	—	—		○	18
24	松持古墳	足利市県町松持山	?	—	—			18

第25表 下野の前方後方墳一覧

われる。この中、①の地域は那珂川を介して常陸と密接なつながりがあり、⑤の地域は③の地域からは遠くはなれ、むしろ渡良瀬川を通じて上(毛)野と密接な地域とみられ、③の地域が下(毛)野の中心地域と考えられる。

ここでは、茂原古墳群が所在する田川流域の様相を中心に、下野における古墳出現期の社会をさぐってみることにしたい。

1 出現期の古墳

この地域の出現期の古墳は、①田川右岸地域の茂原古墳群、②姿川左岸地域の文殊山古墳、③田川下流左岸地域の三王山古墳群の三か所にみることができる。

宇都宮市南部の茂原地区には、田川の形成する沖積低地を望む宝木台地の縁辺に大日塚古墳・愛宕塚古墳・権現山古墳と三基の前方後方墳が集中している。

大日塚古墳は、全長35.8m、後方部高さ4.2m、前方部高さ2.1mと後方部に比して前方部が著

古墳名	全長(m)	主軸方向	後方部(m)			前方部(m)			埋葬主体部		
			長さ	幅	高さ	長さ	幅	高さ	壙穴(m)	木棺(m)	主軸方向
愛宕塚古墳	約50	N-2°-E	約29	25	5	20.6	19.8	2.2	8.2 3.1 } × } 8.6 3.8	1.1 7.4 × } 1.3	N-2°-E
大日塚古墳	35.8	N-65°-E	20.3	19.1 } 19.8	4.2	15.5	16.6	2.1	約3.6×2.4		N-65°-E
権現山古墳	(63)	N-2°-W	(34)	(35)	6.5	(29)	20	3.5			

第26表 茂原古墳群・前方後方墳の規模

しく低く、ほぼ西面する。周湟から東海系の土器を、主体部からは青銅製の素文鏡(径2.6cm)一面を確認した。

愛宕塚古墳は、全長約50m、後方部高さ5m、前方部高さ2.2mで、前方部が低く南面する。後方部墳頂下に東西約3.5m、南北約8.5m、深さ1.8mの壙穴があり、その底面に幅約1m、長さ7.4m、深さ約50cmの狭長な木棺の痕跡を確認し、小形倣製鏡(径約7cm)、管玉5、ガラス製小玉2、刀子1、堅櫛1などの副葬品がみられた。また周湟から綾杉文をもつ有段口辺壺形土器など東海系の土器が出土した。

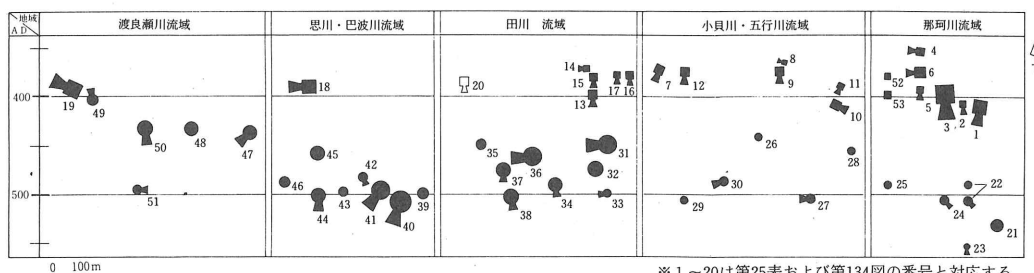
権現山古墳は未発掘であるが全長約63m、後方部高さ約6.5m、前方部高さ約3.5mで南面する。なお、かつて大日塚古墳の前方部に近接した位置にあった小古墳から銅鏃が1本出土している。

発掘した愛宕塚古墳と大日塚古墳を比べると、主軸の方位は異なるが、主軸長はほぼ4:3でそれぞれ晋尺の200尺と150尺に相当し、ともに晋尺で設定されたと推定され、また周湟から東海系の土器を出土することも共通する。ただ濃尾型土器をもつ大日塚に対し愛宕塚の方が、墳丘規模も一段と大きく、埋葬施設や副葬品も整備されており、そこには次第に発展し強大化していく首長の姿をみることができる。このような茂原地区の古墳の様相から、4世紀後半から5世紀前半にかけて、三代ないし四代にわたる同一系譜の首長の存在が推定される。

茂原地区の西約2.5kmに石橋町の文殊山古墳がある。姿川の沖積低地を眼下に望む宝木台地の西端に所在したが、開墾によりすでに湮滅して、墳丘の痕跡は全く残っていない。墳形については、双丘があったといわれ、前方後円墳か前方後方墳のいずれかと思われる。埋葬主体も全く不明であるが、三分の一ほど遺存している白銅製の三角縁形式鏡(径推定13.3cm)、有茎柳葉形の銅鏃4、碧玉製管玉3、鉄剣1が現存し、出土遺物から出現期古墳と推定し得る。茂原地区とはきわめて近接しているが同じ地域集団の首長墓ではなく、大日塚以降の茂原の古墳は田川の沖積地を、文殊山古墳は思川の支流姿川流域を背景として成立した別系統の首長墓である。

さらに茂原地区の南約12km、田川下流左岸に南河内町の三王山南塚1号墳、同2号墳がある。鬼怒川と田川にはさまれた岡本台地の南端に位置し、ともに南西面する前方後方墳である。墳丘規模は1号墳が46.5m、2号墳が50mである。この附近からかつて銅鏃20本が出土したと伝えら

結 茂原古墳群をめぐる諸問題



※1～20は第25表および第134図の番号と対応する。

21観音塚古墳、22群屋古墳群、23下待塚古墳群1号墳、24蛭田富士山古墳群、25谷田1号墳、26芳志戸十三塚古墳、27向北原古墳群8号墳、28新田山古墳群1号墳、29剣塚古墳、30大和田富士山古墳、31笹塚古墳、32鶴舞塚古墳、33八龍塚古墳、34雀宮牛塚古墳、35雷電山古墳、36塚山古墳、37塚山西古墳、38塚山南古墳、39壬生浅間塚古墳、40琵琶塚古墳、41摩利支天塚古墳、42桑57号墳、43宮内2号墳、44茶臼塚古墳、45鶴巻山古墳、46赤麻受右塚古墳、47伊勢山古墳、48佐野八幡山古墳、49小曾根浅間山古墳、50勸農車塚古墳、51助戸十二天古墳、52吉田富士山古墳、53観音古墳

第135図 下野における主要古墳の変遷（前期～中期を中心として）

れているが発掘調査をへていないので詳細は不明である。

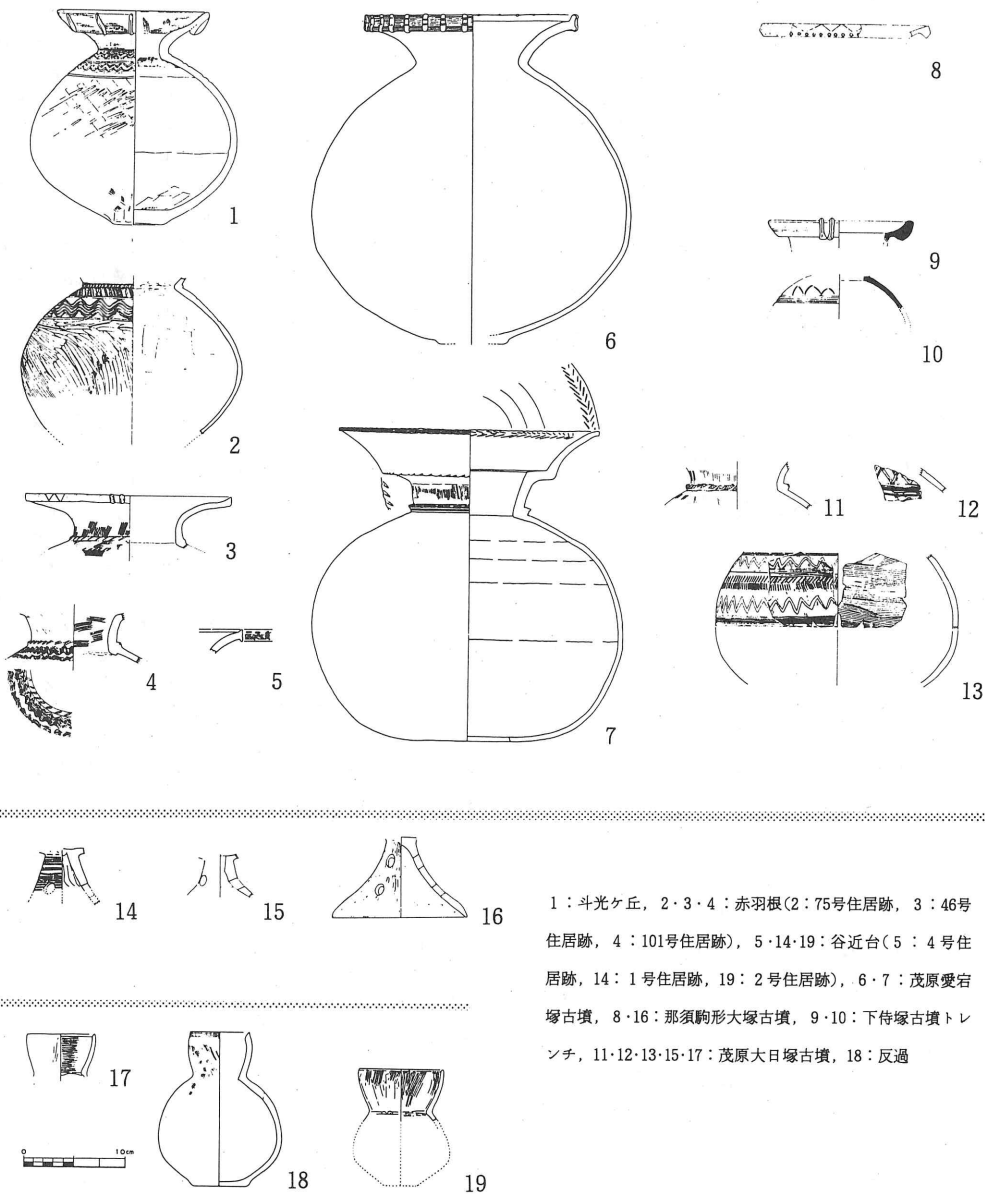
田川・姿川流域における出現期の古墳と推定されるものは、このように三地域に分立する。墳形不明の文殊山古墳を除けばいずれも前方後方墳であることが特徴であるが、那珂川流域や渡良瀬川流域の大形前方後方墳に比べると墳丘規模も50m以下と小さく、副葬品もきわめて貧弱である。副葬品の面径は古墳の墳丘規模に対応するとみる説もあるが、この地域でもそれは適合する。またいずれの古墳でも石製模造品や埴輪がともなわないことは、この段階にはまだ專業者集団を支配下にもつことができなかったことを示している。分立する三地域の出現期古墳の被葬者は、ともに広領域を統合する地域連合の盟主ではなく、墳丘規模・副葬品や分立の状態などからみれば、中小河川の小地域を支配した首長とみることができる。鬼怒川をはさんで対峙する五行川・小貝川流域の前方後方墳の在り方と類似する。しかしこのようなほぼ共通の性格をもつ古墳が三地域に分立するが、それぞれの地域で異なった歴史的経過をたどっていく。茂原地区では、4世紀後半から5世紀前半にかけて首長権が三～四世代にわたり同一系譜で継承され、しだいにその基盤を強化していった過程がうかがわれるのに対し、姿川左岸地区では、茂原地区の古墳よりも豊かな副葬品をもつ(文殊山)古墳のあと、まったく首長墓をみることができなくなる。三王山の場合は二代にわたり前方後方墳がつづいたあと、若干の時間をおいて、北側に全長約76mの前方後円墳・三王山古墳が造営される。このように中小河川流域でも、同一系譜の首長墓が数代にわたる継続型の地区と一代限りで消滅してしまう単独型の地区とがある。そのような現象は他地域でもみられ、那珂川上流域は継続型、渡良瀬川流域は単独型と大河川流域でも異なる様相を示している。

2 古墳出現期の社会

古墳出現期の田川流域には、弥生後期後半の二軒屋式土器を出土する遺跡が多い。住居跡が発見された宇都宮市瑞穂野団地遺跡や国分寺町柴工業団地遺跡のほか、この種の土器が濃密に分布

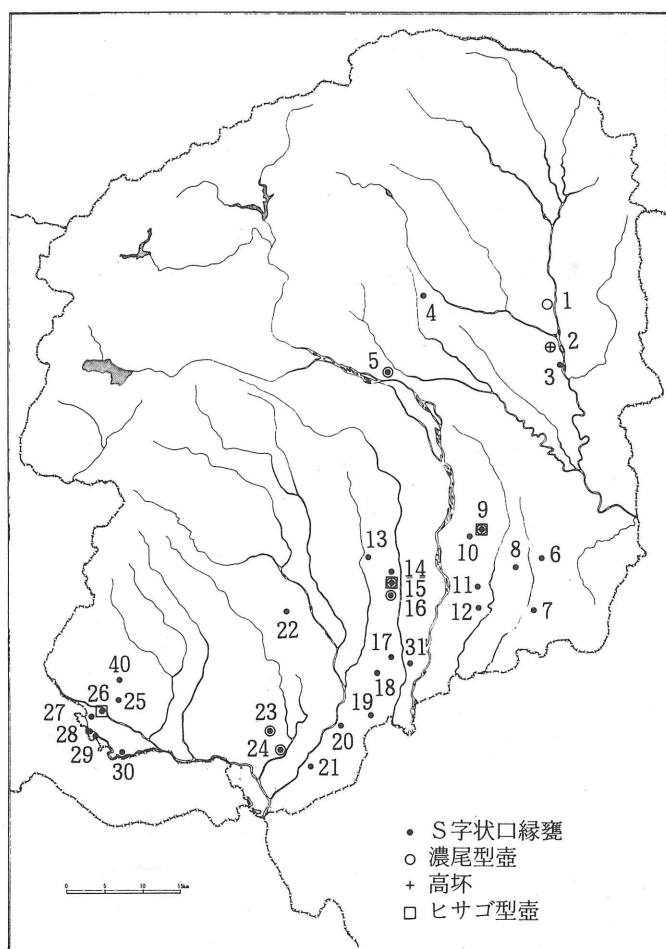
する遺跡は宇都宮市針ヶ谷町から雀宮町にかけて二軒屋遺跡，天狗原遺跡など多く知られる。これらの遺跡は，この時期の集落を想定し得るし，それが河岸段丘や沖積低地を臨む低い台地の縁辺に営まれたことは，低湿地を利用した湿田経営を反映している。

古墳出現期になると，二軒屋式土器の伝統をひく土器は姿を消し，南関東の五領式土器や東海



1：斗光ヶ丘，2・3・4：赤羽根（2：75号住居跡，3：46号住居跡，4：101号住居跡），5・14・19：谷近台（5：4号住居跡，14：1号住居跡，19：2号住居跡），6・7：茂原愛宕塚古墳，8・16：那須駒形大塚古墳，9・10：下侍塚古墳トレンチ，11・12・13・15・17：茂原大日塚古墳，18：反過

第136図 下野の東海系土器（濃尾型壺・高坏・ヒサゴ型壺）



第137図 下野の東海系土器分布図

1. 下侍塚古墳トレンチ
2. 那須駒形大塚古墳
3. 谷田1号墳トレンチ
4. 登内遺跡
5. 斗光ヶ丘遺跡
6. 向北原遺跡
7. 車堂遺跡
8. 久保遺跡
9. 谷近台遺跡
10. 中西原遺跡
11. 吹上遺跡
12. 真岡工業高校北遺跡
13. 花の木町遺跡
14. 権現山北遺跡
15. 茂原大日塚古墳
16. 茂原愛宕塚古墳
17. 薬師寺南遺跡
18. 柴工業団地内遺跡
19. 溜ノ台遺跡
20. 神鳥谷遺跡
21. 亀田遺跡
22. 赤石遺跡
23. 赤羽根遺跡
24. 山王寺大塚古墳
25. 利保南遺跡
26. 反過遺跡
27. 下八幡遺跡
28. 新宿遺跡
29. 藤本観音山古墳
30. 小曾根浅間山古墳
31. 朝日観音遺跡
40. 西根遺跡

系の土器が、宇都宮市権現山北遺跡、南河内町薬師寺南遺跡、国分寺町烏森遺跡、柴工業団地遺跡など多くの集落遺跡にみられるようになる。集落の立地はほぼ前代と同じであるが、遺跡数の増加が著しく、田川流域の開拓が急速にすすんだことを示している。このような開拓の推進力になったのは、新たに加わった外来系土器に象徴される入植者たちであったと思われる。南関東の弥生式土器から古式土器への移行が漸移的な変化で一線を画しにくいのに比べると、この地域の変化は断絶的で、すでに記した出現期古墳が東海系土器を伴うのに対応する。このような出現期古墳や集落の特徴は、かなり多くの人間の移動によるものと考えられ、それは畿内政権による東国への浸透活動に東海地方の人々がかなり重要な役割をになっていたことを示唆している。

3 おわりに

田川流域のこの時期の集落の特徴をよく示すものとして薬師寺南遺跡と烏森遺跡とがある。薬師寺南遺跡では5軒の住居跡が一単位のもまりをもち、烏森遺跡では6軒が一単位集団を形成

する。このような単位集団は一般に血縁関係の強い個別世帯の集合体(世帯共同体)とみられ、農業経営の基礎単位であったとされる。烏森遺跡では、炉・貯蔵穴・土器など一般的な消費生活に必要な要素を充足させる規模のやや大きな竪穴2軒(A)と、そのうちのいずれかの要素を欠く規模の小さな竪穴4軒(B)に分かれる。(B)は炉のないもので、一般の住居と別な性格のものとも考えられるが、(A)を世帯共同体の家長やその直系世帯、(B)を一般世帯のものとすることもできよう。薬師寺南遺跡でみられる方形周溝墓は、その家長クラスの墳墓と考えられる。

水稻農業が発展して灌漑・排水の水路を造成して新たに乾田経営をすすめる段階になると、多くの世帯共同体の共同労働が必要となり、土地と水利を媒介とした地縁にもとづく集団「農業共同体」が形成されるが、田川流域に最初に出現した小規模な前方後方墳の被葬者は、そのような集団の首長の墳墓であったと考えられる。

(参考文献)

- 1 山越茂 1976「上侍塚古墳・上侍塚北古墳・下侍塚古墳」『栃木県史』資料編考古一 栃木県
- 2 斉藤忠・大和久震平 1986『那須国造碑・侍塚古墳の研究』吉川弘文館
- 3 三木文雄・村井崑雄 1957『那須八幡塚古墳』吉川弘文館
- 4 三木文雄編著 1986『那須駒形大塚』吉川弘文館
- 5 大金宣亮 1974「栃木県那須地方における古墳の分布と展開」『下野古代文化』創刊号
下野古代文化研究会
- 6 大金宣亮 1977「温泉古墳」『栃木県考古学年報』1(昭和50・51年) 栃木県考古学会
- 7 山越茂 1976「浅間山古墳」『栃木県史』資料編考古一 栃木県
- 8 小森紀男・小森哲也ほか 1986「上根二子塚古墳群墳丘測量調査報告」『峰考古』第6号
宇都宮大学考古学研究会
- 9 山越茂 1976「亀の子塚古墳」『栃木県史』資料編考古一 栃木県
- 10 小森哲也 1987「星の宮浅間塚古墳」『益子町史』益子町
- 11 山ノ井清人 1984「山崎第1号墳」『真岡市史』第1巻考古資料編
- 12 斉藤光利 1990『三王山南塚2号墳発掘調査概報』南河内町教育委員会
- 13 前沢輝政 1977『山王寺大樹塚古墳』早大出版部
- 14 前沢輝政・市橋一郎・大澤伸啓 1986「藤本観音山古墳第2次発掘調査」『昭和60年度埋蔵文化財発掘調査概報』足利市遺跡調査団・足利市教育委員会
- 15 鈴木勝 1981「木幡神社古墳の墳形について」『栃木県考古学会誌』第6集 栃木県考古学会
- 16 山越茂 1979「文殊山古墳」『栃木県史』資料編考古二 栃木県
- 17 山ノ井清人 1987「北原古墳群」『壬生町史』資料編原始古代・中世 壬生町
- 18 前沢輝政 1981「第四章古墳と古墳時代」『近代足利市史』第三巻史料編 足利市